

特集：アセアン横断型グローバル課題挑戦的教育(TAG)プログラム

TAGパイロットプログラムに参加して —3/15の旅行記—

山川 隼平（筑波大学 生物学類 1年）

この日は宿泊先のペナン島から半島北部のBelumに移動し熱帯雨林等の観察を行うスケジュールとなっていた。特に目的地であるBelumではタイとの国境に近いTasik Temengorと言う湖内の小さな島にあるBelum Research Centreに赴くことになっていた。

朝は良い天気だった。目的地までは車で2~3時間程度だった。道中、ペナン島と半島部を結ぶ非常に長い橋を通ったり、セパタクローをしている人を見かけたり、日本では見かけないような植物を目にしたりと窓の外の景色はずっと見ていて飽きなかった。Belum Research Centreの近くに船着き場のような場所があり、船着き場からは湖を横切る橋が目に見え、またこの湖が遠くまで広がっていて辺りは熱帯雨林の山地に囲まれていることがよく分かった。この場所から船で観察ポイントに向かった。

この一帯にはゾウが住んでいるらしく、ゾウがよく姿を見せる場所にまず向かい、それから水生昆虫が採れる溪流がある場所へ向かった。広大な湖と熱帯雨林が織りなす景色は雄大だった。背の高い木が多く、断崖になっている場所には大きな蜂の巣が見られた。そんな景色の中を船で進むのはとても気持ちが良かった。出発して数十分で最初の目的地に着いた。船から降りて案内に従って森の中に入っていったときは探検隊のようでとても楽しく思った。森の中には枝などに蔓が巻き付いているものも多く、吸盤のように樹皮に葉を張り付かせるものや表面に多数の棘が付着したものなど、目にしたことのない色々な植物が生えていた。複数種のセミが聞いたことのないような鳴き声で鳴いていた。サソリやヤスデと言った沢山の節足動物も見られた。結局、ゾウを目にすることは出来なかったが、糞や足跡は見られた。ゾウのいる証を見られただけでも十分に思った。

次に、溪流がある場所へ向かった。その場所へ向かう途中スクールに遭った。マレーシアに来て初めてのスクールだった。体に雨が吹き付けて痛いくらいだった。次に訪れた場所も初めの場所と同じような様相だった。ただし雨がちな天候もあって、辺りは少し湿り気を取り戻していた。(マレーシアはこの時記録的な旱魃に見舞われていた。) 雨で元気を取り戻したのか否か、突如20~30cmほどの大きなヤスデが姿を現した。熱帯を感じさせるその生物に一同大興奮。捕まえて腕の上を歩かせたり、丸まらせてみたりした。溪流では、石を裏返したり、落ち葉を拾ったりしてトビケラやカゲロウの幼虫等を採集した。

この後はBelum Research Centreへ戻って、施設の一部を借りてサンプリングした菌類の観察などを行った。この日熱帯雨林の中を実際に歩いて、色々な生物を観察できたことは今後生物学を学

んでゆくうえでも非常に貴重な経験になったと思う。熱帯雨林の環境に圧倒されて、生物の面白さを身に染みて感じた。(左上から)葉が吸盤のように幹に張り付いていた植物、幹がとげとげな



木、サソリ、ヤスデを観察する出川先生とその一行、巨大なヤスデ、船。

出川先生をはじめラボの皆さん、研修プログラムの関わってくださった皆さんには本当にお世話になりました。ありがとうございます。

Communicated by Yosuke Degawa, Received April 18, 2014.